

プログラム

開会のことば……………長門谷洋治

一 近世京都の「癩」病人について……………

……………横田 則子 (立命館大学)

二 幕府典薬頭について……………宗田 一 (京都市)

三 福井藩解剖の遠因の探求—解体新書・重訂解……………

……………体新書(吉雄氏)の考察—

……………岩治 勇一 (大野市)

四 砂千代姫君様拝診御用留記……………

……………— 彦根藩医三浦太仲尚賢の記録—

……………正橋 剛二 (富山市)

五 明治期の大阪で発行された医事雑誌……………篠原 治道 (富山医薬科大)

六 佐伯理一郎『普通看病学』について……………寺畑 喜朔 (金沢医大)

七 種痘のイギリスから東アジアへの伝播……………長門谷洋治 (豊中市)

八 『西説内科撰要』の刊行について……………石田 純郎 (三菱水島)

九 浅田宗伯筆写『医心方』について……………古西 義曆 (大阪市立此花図書館)

一〇 戦後京都におけるじん肺対策について……………杉立 義一 (京都市)

……………乾 修然 (京都市)

二 ヨンケルとその周辺……………奥沢 康正 (京都市)
三 追悼・緒方富雄先生……………有 志
三 報告と招待……………有 志

京都医学史研究会、北陸医学史同好会、医学切手友の会関西支部、第九一回日本医学史学会総会(岡山)、日蘭修好三八〇周年記念行事、医学史研究会、日本医学史学会関西支部など

二四 医学史関係資料展示……………有 志

会員が、それぞれ手近にある資料、自著、文献等の展示および解説を行った。

特別講演

中国古代医学と哲学……………村上 嘉實 (元関西学院大学教授)

閉会のことば……………杉立 義一

懇親会

例会記事

一月例会 平成元年一月二十一日(土)

順天堂大学医学部九号館一番教室 (蘭学資料研究会と合同で行われた)

一 河口信順が古河藩に帰って伸びられなかった理由……………

……………川島 恂二

二 ビデオ鑑賞—医跡めぐり—
「維新の夜明けとともに」福岡県（八分）

三 ソヴェトの医学史書から

岡田 靖雄

二月例会 平成元年二月二十五日（土）

順天堂大学医学部九号館一番教室

一 わが国の顎顔面補綴のはじまり

新藤 恵久

二 ビデオ鑑賞—医跡めぐり—

「解剖事初め・山脇東洋」京都府（九分）
梶田 昭

三 旧約聖書の医学用語について

順天堂大学医学部九号館一番教室

三月例会 平成元年三月二十五日（土）

一 宮城県的女医・山崎富子の活動について

高橋みや子

二 奈良時代の医療の実態

杉田 暉道

三 明治初期静岡県の病理解剖の状況

土屋 重朗

四月例会 平成元年四月十五日（土）

順天堂大学医学部九号館一番教室

一 前野蘭化の自画自賛図について

木村陽二郎

二 江戸幕府における鍼科と盲人

香取 俊光

例会抄録

ソヴェトの医学史書から

—『医学の象徴』ほか—

岡田 靖雄

わたしは医学史面では、ソヴェトの精神医学史、条件反射学説史をおっていて、医学史全般には目をむけていない。だが、医学史博物館はいくつかあり、精神科関係雑誌でも歴史についての論文がある程度のっている点からみて、ソヴェトでは、すくなくとも日本におけるよりは医学史が重視されていることはたしかである。今回、一般医学史の著書二冊を入手したので、それを紹介した。

一 タチャナ・セルゲーエヴァ・ソロキナ著『医学史アトラス 近世（一六四〇～一九一七）（一九八七年）』これは古代篇、中世篇に続くもので、四冊の企画とおもわれる。まえの二冊はみていない。ほぼA五判で一六八ページ、二二七図。序説、解剖学、病理解剖学、組織学、胎生学、一般生物学、遺伝学、微生物学、生理学・実験医学、内科疾患、産科学・婦人科学・小児科学、感染症・疫学、精神医学、外科学、衛生学・社会医学の項目にわけて、主要な人物とその業績を、写真・図を中心に紹介している。一時期ソヴェトにあった排外的自国中心主義はみられない。安価な本で、医学史の普及をはかるには、日本でもまねてよい。